

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ご利用者様とご家族様、地域の方々とのふれ合いを大切にします を理念とし実施している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、日々のミーティングやスタッフ会議で理念に基づく運営方針について、職員と十分話し合い共有化している。また、日々具体的な形で実践しようと取り組んでいる。	○  具体的な言葉でまとめた理念をスタッフルーム入口に掲げ職員が出勤時、理念を唱和し取り組んでいる。
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	広報委員が定期的に広報誌を作成しホームでの様子、イベント等を家族や地域の人々に分かりやすく理解出来るよう積極的に取り組んでいる。	○  広報誌による地域で認知症の方が普通に暮らし続ける事の大切さを家族、地域の人々にアピールするなどの働きかけを広報誌を通し配布するなど広く活用を行っている。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近くのスーパーへの買い物、近隣公園への散歩の際に近隣所の方に挨拶をし気軽に付き合いが出来るよう努めている。	○  入居者様と一緒に買い物、散歩をしている姿に近隣所の人から、明るく声掛けを下さいます。
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	特定施設の入居者様、職員と合同で地域交流の集いに参加されました。地元の人々と交流を深める。	○  毎月、ボランティアによる行事、歌を歌ったり、読み語りなど積極的に行っている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>今の段階では、話し合いも出来ていない。</p> <p>○</p>	<p>今後、何か役立つ事がないか話し合い取り組んで行きたい。</p>
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>この評価表を活かし職員に理解していただき、質の確保、向上に取り組んでいる。</p>	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では入居者様、家族、地域の方による、報告、情報など話し合いをし、サービスの向上を図っている。</p> <p>○</p>	<p>入居者様、家族の意見を取り入れることで、十分に理解して積極的に参加してもらえるよう、働きかけに取り組んでいる。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議以外は行き来する機会がない。</p> <p>○</p>	<p>今後、運営推進会議以外でも気軽に立ち寄って頂き、サービスの質の向上に取り組んでいきたい。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>勉強会を開催し、地域権利擁護事業、成年後見制度について学び、必要と考えられる入居者様がそれらを活用する為の話し合いや関係機関への支援を行ったことがある。</p>	
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員による言葉遣いなど、虐待になっていないかなど、細心の注意を払い、虐待の徹底防止に努める。</p>	<p>高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会をもっていきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様や家族等に丁寧に分かりやすく説明し、納得を得た上、同意を得ている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御意見箱を設置し利用者の意見、不満、苦情を気軽に伝えられるようにしている。万が一苦情等があった時には管理者は速やかに報告している。	○  外部等にも苦情内容を伝えどのように改善しているか表せる機会を設けていきたい。
14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面会時に入居者様の日頃の生活ぶり、健康状態など伝えている。また、利用料金等の請求書を送付する際に広報誌や「ご家族様への一口メモ」を同封し入居者様の様子を伝える。	○  家族が知りたい点を考慮しながら定期的な報告はもちろん、本人や家族等の状況に合わせて個別報告を丁寧に行うことに取り組んでいる。
15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	当施設のスタッフルーム入口脇に苦情等を受け付ける意見箱を設置している。また、家族訪問時に声をかけて、気軽に意見が言えるような雰囲気づくりに心掛けている。	○
16	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	相談票の用紙に意見を記載し運営者・管理者との話し合いを出来る場を持ち、速やかな対応をしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	変化する状況に合わせた支援を柔軟に提供する。勤務の調整については、管理者、職員が話し合い臨機応変な対応を行っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を保つことを重視し、職員の配置異、離職に対応し入居者様のダメージを最小限に抑えるよう配慮している。	○	入居者様に心理的ダメージを与えないよう、ケアの継続に取り組んでいる。
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や協力医療機関、隣接施設と合同の勉強会に積極的に参加している。参加者はレポート提出をし、全員が内容を理解出来るように実施している。	○	施設外での研修に参加したい時には、勤務によって、行けない事もある。もっと積極的に参加出来るよう取り組んでいきたい。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員が地域の同業者と交流する機会がない。	○	交流する機会を作り、ネットワーク作りや、相互訪問等の活動を行えるよう取り組んでいきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	親睦会、忘年会の開催。責任者による勤務上、又はプライバシー上の悩み相談を軽減する事で居心地の良い環境の確保に取り組んでいる。	○	各ユニットの管理者は職員の意見をよく聞いて業務に反映する工夫を行っている。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職場環境を整える事で勤務の継続にもつながり、向上心を持って働けるよう取り組んでいる。	○	職員より日々の努力や実績、勤務状況を把握して頂き、給料、休暇に配慮して頂きたいという声がある。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用に至るまでの相談はケアマネジャーが行い、入居後についての不安な事、求めている事などを、本人自身からよく聴く機会をつくり受け止める努力をしている。	○ 本人の不安を取り除くため、時間をかけ話を傾聴し信頼関係を保てる様、心がけている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族など困っている事など、相談から利用に至るまで、ケアマネジャーが行い入居後、家族が安心出来るよう連絡を密にしている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の実情や要望をもとに、その時点で何が必要かを見極め、必要に応じて他のサービスの利用の調整を行うなど、出来る事は速やかに実施している。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が納得し、徐々に安心して、雰囲気馴染めるようになってから、サービスなど提供している。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員がただ傍についているのではなく、利用者の喜怒哀楽に関心を寄せながら、一緒に過ごし、認知症の有無や身体状態のいかに係わらず一人一人の言動から分かり合えることで支え、支えられることを日常の中で支援を行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族にも支援する中で家族にも協力して頂きたい事など常に相談し、本人の生活を共に支援しているよう築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員の関わりによって本人と家族との距離が離れてしまっている状況がないかの確認を行いながら、本人と家族の支援を実施している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族が施設への入居に対し身内だけの方へ、知らせない事も多い。	○	ご家族にも施設への入居について理解して頂き、本人が親しんできた方々と付き合いが出来るよう支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が共に助け合い、支えあって暮らしていくことで利用者間関係の理解に努め、利用者が孤立せずに共に暮らしを楽しめるよう支援を実施している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了すると、継続的な関係は行っていない。	○	利用者や家族が契約後、孤立していないか確認する必要があるのではないか。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人一人の思いや希望、意向等を把握し聞いても、実際は困難をきたす。認知症の利用者の場合は、職員全員が一人一人の思いや意向について関心を持ち、入居者様の視点に立って、意見を出し合い、話し合っていく取り組みを行っている。	
34	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様個々の歴史やサービス利用に至った経過を知ることで、プライバシーに配慮しつつ、職員が本人や家族等と馴染みの関係を築きながら、日々の中で、これまでの暮らしを促していくよう実施している。	
35	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者様一人一人の1日の暮らしの流れにそって、本人の状況を総合的に把握し、職員が見落としやすい、本人の出来る力、わかる力を暮らしの中で発見していくよう努めている。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の個人経過記録やカンファレンスで話し合った内容、家族の要望や入居者の状況などを踏まえ、入居者様一人一人の特徴を活かした、きめ細やかな介護計画を作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	4ヶ月ごとに各担当者の意見を踏まえて見直しを行っている。また、状態の変化や家族から要望があった場合は、随時見直しを行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様一人一人の記録には、日・時間を明記するとともに、その時の状態の変化を時間を追って詳しく記録して介護計画の見直しに活かしている。		
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者様と家族の、日々変化する状況や重度化していく状況、要望に応じて、必要な時に、必要なサービスを、臨機応変かつ柔軟に馴染みの職員が提供していくよう実施している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員、消防署への協力依頼はもちろん交流のきっかけづくりに積極的に働きかけている。		
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向の必要性に応じて、他のサービスを利用する為の支援はしてない。		
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護や総合的なケアマネジメントなど、地域包括支援センターとの協働していない。	○	地域包括支援センターとの連携を図りながら個別支援をしていけるようにしていきたい。



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様が馴染みの医師による継続的な医療を受けられるよう対応しています。又、状況に応じては、隣接する病院への受診や協力医療機関等を受診する際は、あくまで入居者様と家族との同意を得て実施している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	隣接する医療機関等の医師による助言、相談を受けられるよう支援を実施している。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師を配置しており、病状の変化や不安定な状況の早期発見やスムーズな対応を行うことで一人一人の健康管理、医療的な支援を実施している。	○	普段から気軽に看護師に状態や個別の状況を相談する事で即応体制に取り組んでいる。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	退院にあたり、家族と共に責任者が、病院側と話し合いをもって連携し実施している。	○	家族と相談しながら、医療機関に対して、情報提供やケアについての話し合いをし、同時に長期入院は本人のダメージにもつながりますので病院関係者、家族と相談し、必要な支援に取り組んでいる。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者様、家族等、隣接する医療機関や看護師と早期に話し合い、入居者様と家族の思いを受け入れ、安心してサービスを利用出来るように、また、日常の健康管理や急変時に対応できるように方針の統一を実施している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	安心と安全を確保し、より良く暮らすために対応が可能なこと、困難なこと、不安なこと等を職員全体で話し合い、家族や医療関係者との連携を図りながら支援していく。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住む先の関係者に対して、本人の状況、習慣、好み、これまでのケアの情報を詳しく提供し環境や暮らし方の継続性等に配慮していただけるよう実施している。	○	介護サマリーに詳しく記入し、家族及び関係者間で話し合い、検討し、ダメージを最小限に食い止めるよう取り組んでいる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員が入居者様に向けて発している言葉の内容や語調等が入居者様の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねていないか日々、日常的に気をつけ対応します。また、個人情報保護法の理解を全ての職員が把握し秘密保持の徹底を行っている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々変化している状況に対し、表情や全身の動きで本人の思いや希望をキャッチ出来るように支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人のペースを守り、日々の暮らしがその人らしいものとなる様に、職員同士が話し合い、工夫し、入居者様に合わせていく姿勢や実践に取り組んでいる。	○	入居者様一人一人に合わせた姿勢で本、カルタ、歌など柔軟に支援出来るよう取り組んでいる。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個々の個性、希望、生活歴等に応じて、髪型や服装等の身だしなみやおしゃれを個別に支援し、職員側の価値観や一方的な支援ではなく、本人の好みや意向、持っている力に応じた支援を実施している。	○	本人の希望を第一にしている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者の好みや苦手なものを把握し、又、入居者様の状態に合わせ、常食、刻み、超刻み、など厨房で調理をし料理をそのまま配膳している。	○	入居者様に配膳を行う際、再度確認をし、状況に応じて、刻み、食べるという意欲を発揮できるように取り組んでいるのが現状です。
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者様が自宅にいる時と同様に嗜好品を楽しむように家族と話し合い、一人一人の好みや意向を大切に、それを好まない周囲の入居者様への配慮や、本人との調整も行い実施している。	○	お酒とたばこについては入所時家族の方にフロア内での生活は禁酒、禁煙である事を説明しています。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者様一人一人の排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮しながら支援している。又、「排泄チェック表」にチェックするとともに、声かけして誘導するよう心掛けている。失禁時の対応などに十分注意し実施している。	○	本人の希望を尊重し出来る限りオムツ使用せず、トイレでの排泄介助を行っている。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者様一人一人の好みに合わせて、ゆったりした気持ちで入浴できるよう、心掛けている。また、入浴できない時は、必ず清拭や足浴等を支援している。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者様一人一人の睡眠パターンを把握している。安眠が出来るよう、日中リハビリ、レクリエーション等の活動を促している。又、寝付けない利用者様が居る時は、ゆっくり話を聞いたり、温かい飲み物を提供している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみなど入居者様が役割として自ら進んで自然に行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は入居者様本人がお金を持ち買い物できるよう、支援することの大切さや必要性は理解しているが、トラブルの原因になる為、事務所で管理しており、入居者様自身が支払うことについての支援は行っていない。	○	必要な時、事務所から預り入居者様と買い物に行くように行っている。
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は天気の良い日は入居者様と一緒に散歩等をしているが、遠方へのドライブなどを計画しても入居者様の状態などその時々状況に応じて外出の機会が十分ではない。		入居者様が重度化しているの本人に合わせた移動の配慮をしながら外出支援していくよう検討していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の思いに添って家族と相談しながら、家族とともに外出支援を実施している。		
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の了解が取れば考えられる。頻回に電話の利用をしたくなる入居者様とそんなにかけて欲しくない家族との関係が難しい。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	本人の馴染みの人達が、気軽に訪ねやすく居心地良く過ごせるよう配慮し、職員の対応、湯茶等物品を本人のものを使用している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、行わないということは職員は十分認識しケアに取り組んでいる。	○	車椅子からのずり落ち防止策として足の位置調整など職員で話し合い支援を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望が強い方、夕方不穏になる方等、勝手に飛び出しかねない状況なので、危険防止の為、鍵を掛けている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人の状態や気持ちに添って安全できめ細やかなケアを行う為には、入居者様の動きやサインを察知する事で全員の様子をさり気なく常に見守っている。特に夜間は1名になる為、ケアや緊急時に備えて入居者様の状況を最も確認しやすい位置にいてプライバシーに配慮しながら安全確認を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	消毒薬や薬類、刃物等はスタッフルームに保管しており、職員がスタッフルームを出る際には必ず施錠している。	○	スタッフルーム内の鍵のかかる棚に保管している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書やヒヤリハット報告書を作成しており、事故発生時などには報告書に記録することを励行している。また「リスクマネジメント委員会」を開催し報告書に基づく事故発生の状況や対応等、改善方法等を検討しており、各ユニットに内容を伝達し再発防止に向けて職員で取り組む体制となっている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急箱、吸引器を用意し緊急時の対応をしている。施設の看護師に手当ての仕方を昼夜問わずに聞ける体制ができています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員のみで災害対策について訓練しているが、地域の人々とは行われていない。		特に夜間は職員も1人の為、地域の人々に協力を得られるよう働きかけていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者に起こり得るリスクについては、家族と十分に話し合っていますが、本人にとって抑圧感のない暮らしになっていないか今後見直して行きたい。	○	利用者様の安全を確保しつつ抑圧感のない自由を支援していきたいが家族の納得と理解を得ていきたい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者様の体調の変化や異変の発見のために普段の様子をよく観察している。いつもと違う状況の時は、早期に看護師に相談している。		
74	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋をよく見て、入居者様1人1人、どのような副作用があるか理解し行っている。		
75	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個々の便秘の原因を探り、家族とも相談しながら、1人1人に応じた自然排便を促す為の工夫をし、日常の暮らし全体を活かし継続的に予防、対応を実施している。	○	リハビリ体操を積極的に取り入れ十分な飲水摂取を促すなど工夫している。
76	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨き、必要に応じての歯科受診の検討をしている。入れ歯は毎晩洗浄剤を使用している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	むせたり、飲み込みが悪くなったり、病気等で普通の食事が食べれない入居者様についても安易に人工的栄養補給に頼らないことで、体調や運動量、食べるタイミング、介助の方法や食器の工夫等、暮らし全体を通して食欲を促し、食が進むよう対応している。	○	おやつや捕食も含めて入居者様1人1人1日全体で栄養や飲水量がどの程度とれているかチェック表を取り入れ個別支援をしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に関して情報を集め、予防や対応について検討して取り決めた内容をファイルに綴じ、共有化している。又、外出などからホームに戻ってきたときは手洗い、うがいを励行している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具等は清潔、衛生を保つため、使用后消毒をしキレイに洗った後鍵付き戸棚に保管している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	プランターに季節の花を咲かせ室内にも常に草花を摘んで飾るようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほのぼのとした雰囲気作りに努めているが常時注視が必要な入居者様がいるという理由で日中も共用空間あるホールにベットを置いている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様が自然に利用できるようソファを置いて居場所を作っており、テレビを見たり、くつろいだり、レクレーションをして楽しんでいる。	○	常時注視が必要な入居者様の特徴を踏まえて注視方法の工夫を行うなど、ベットを共用空間であるホールに出していることについては、家族的な雰囲気という観点から職員間で話し合い検討したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	居室の入口には入居者様の似顔絵を表札として掲 示して馴染みの物を活かしてその人らしく過ご せる部屋にしている。	○	使い慣れたタンスなど家族と相談しながら個別に 応じた取り組みをしている。
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	換気の必要性は職員は十分認識しており換気や室 温については常時気配りしていると同時に担当 者を決めチェックしている。また、居室の冷暖房 は調節器が入居者様の目の高さがあり、触って しまうことがよくあるため、こまめに観察して いる。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	フロアには手すりが設置されているが居室内には 手すりが無い為、ふらつきのある方には、不安 を感じる方もいる。		
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	居室の入口に入居者様の似顔絵や表札や浴室入 口に大きなお風呂のマークなど、入居者様が混 乱しない工夫をしている。又、ホールは、ホ ールを中心に居室やトイレを配置しており、職 員は常に入居者様を見守り、場所間違いをし ている時などさりげなく声掛けしながら、誘 導している。		
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	入居者様の馴染みの暮らし方や希望、有する 力を活かして、植木の手入れや水、洗濯物や日 向ぼっこ等が出来るよう、玄関先や庭、ベラ ンダ等を活かしている。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ご利用者様が家庭的な環境で共同生活を送れるよう、食事・入浴・排泄等の介助を24時間体制で見守ります。また、認知症状の進行を和らげるため、料理・清掃・洗濯等をできるだけご本人が行うよう支援します。